

現内閣は軍備擴張の大任を托するの信用ある乎

(明治二十四年九月十八日)

【二十四年五月、總理大臣山縣有朋氏辭職。先きに長閨の代表者伊藤博文氏始めて總理大臣となり、二十一年に井上外相條約改正の失敗の結果伊藤氏辭して、薩閨の代表者黒川清隆氏が總理となつたが、二十二年大隈外相條約改正蹉躓の爲め辭職、長閨の代表者山縣氏立ちて、こゝに第一期の國會に臨んだ。今ま山縣氏の辭職に付、薩閨から其の代表者として松方正義氏を推し、西郷内務大臣が、來遊中の露國皇太子負傷事件に責を引いて辭職した述へ、長閨の品川彌次郎氏を入れた。

今や新内閣は、前政府が議會に言明した約束に従て、官制改革經費節減を實行し、第二議會に臨まればならぬ。然るに其の七月發表した改革官制が、民黨の意志と甚しい相違なので、第二議會に於ける豫算會議の衝突は既に明瞭となつた。

當時の第一問題は海軍擴張問題であつた。本論は是に對する先生の意見の發表で、同時に當時民黨の代表と見て差支ない。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇
十一月廿六日第二議會の開院式。

是より先き同月八日、自由黨總理板垣退助氏は改進黨の實際的首領大隈重信氏を早稻田の本邸に訪ひ、こゝに第二議會に於ける自由改進兩黨の提携成る、

十二月十八日、衆議院に於て豫算本會議。民黨査定案は、政府の極力反對するに拘らず、一瀉千里の勢もて通過す。

二十二日、海軍擴張問題即ち軍艦新造、製鋼所新設の豫算、衆議院議場に於て全部否決さる。海軍大臣樺山資紀氏が猛虎の狂へる如き勢を演壇に現して、薩長政府の功勳を疾呼し、是に對して島田先生が即坐に反駁を加へた演説は、既に全集第一卷に收めてある。

二十六日、政府案全敗。同夜衆議院解散。】

一

予輩は、政府が政務更張の資金を國會に要求するに先だち、其の政略の方針を確定して、之れを明示するの責任あるを信ずるなり。夫の喋々國防の事を説く者、何ぞ顧みて從來政府の施爲を考査せざるか。我政府が國防の急を大呼して、献金を有志の富豪に徴したるは、數年以前にあり。此の時に當り、我天皇陛下は首として供て殖産潤屋の資を捐て、之れを國防資の中に投せられたり。憶ふに全國の富豪が奮つて殖産潤屋の資を捐て、之れを國防に供したるは、當局有志の説示に動されしにあ